

「地域航空フォーラム/07」を開催しました

これからの地域航空・小型機で首都圏と結ぶ新展開

市では、平成22年の東京国際(羽田)空港の再拡張時を目標に、コウノトリ但馬空港からの直行便の実現に向け、兵庫県等関係機関と連携を図りながら、さまざまな取組みを展開していますが、その一環として「地域航空フォーラム/07」を開催しました。

《問合せ》都市整備課交通政策係



開会に先立ちあいさつする中貝市長

11月1日、出石ニューグラ
ンドホテルで、全国から航空
行政に携わる自治体職員や航
空事業者など約300人が参
加して「地域航空フォーラム
/07」を開催しました。

このフォーラムは、(財)日本
航空協会が主催し、毎年各地
で開催されているもので、今
年は、コウノトリ但馬空港か
らの東京直行便の実現に向け、
豊岡の魅力年全国の航空関係
者に発信するとともに、直行
便にかける地元の熱意を伝え
るため、市と兵庫県が共催し
て第10回のフォーラムを本市
に誘致しました。

来賓には、地元選出衆議院
議員である谷 公一国土交通
大臣政務官のほか、室谷正裕

国土交通省航空局飛行場部長
と武田洋樹国土交通省大阪航
空局長を迎えました。

主催者側として、近藤秋男
(財)日本航空協会会長が「航空
ネットワークにおける小型機
の役割が注目を集めつつあり、
羽田空港の発着枠の拡大を控
え、小型機が就航する地方都
市の豊岡でフォーラムを開催
できることに意義を感じる」
とあいさつされました。

また、共催者として、五百
蔵俊彦兵庫県副知事は、「但
馬の願いとして、東京直行便
への取組みを進めている中、
時機を得たテーマであり、
フォーラムを直行便実現への
弾みとしたい」。中貝市長は、
「コウノトリ但馬空港が地域
活性化の起爆剤となるよう努
力を続けてきたが、高速道路
の北伸が進み相対的に但馬
伊丹便の競争力が低下してい
る。羽田空港の再拡張に際し、

小型機の発着枠が認められる
よう国土交通省にお願いする
とともに、直行便の航空路開
設について航空会社にお願
いしている。他の自治体と連
携しながら、今後、働きかけを
強めていきたい」と述べまし
た。

基調報告

航空をめぐる最近の情勢



武田洋樹国土交通省
大阪航空局長

続いて行われた基調報告で
は、武田大阪航空局長が「航
空をめぐる最近の情勢」と題
して、航空輸送の果たす役割
や航空ネットワークの構造、
コンピュータ航空輸送の実績な
どについて報告されました。

基調講演

観光と地域振興

国土交通省の重田雅史観光地域振興課長の「観光と地域振興」と題した基調講演では、全国的に『兵庫県』への「関心度」は高いわりに「満足度」が低いこと、兵庫県全体に占める豊岡市の人口の割合に比べて、延べ宿泊数の割合が高く、出石や城崎温泉の集客力を高く評価するなど、各種のデータを交えながら大変興味深い話がありました。



重田雅史国土交通省観光地域振興課長

講演の最後には、「グローバル化した地域間競争に勝つ秘訣」を東京デイズニードを例に上げながら分かりやすく説明され、多くの参加者

が熱心に耳を傾けていました。

航空保安対策について

国土交通省の岩田賢航空安全推進課課長補佐は、「航空保安対策について」と題して、9・11同時多発テロ以降の航空保安体制や危機管理の方法など実例を交えながら分かりやすく説明され、特に、「危機管理担当者の心構え」は、自治体職員にも通じるもので、大変有益でした。

パネルディスカッション

これからの地域航空
小型機で首都圏と結ぶ
新展開

最後に行われたパネルディスカッションには、コーディネーターの山本雄二郎高千穂大学客員教授（全国地域航空システム推進協議会 専門委員）のほか、パネリストとして、岐阜大学の竹内博史教授、FMジャンゲルのパーソナリティーで自らも飛行機やヘリコプターの操縦もされる竹村あゆみさん、国土交通省航空局監理部航空事業課の篠原康弘課長、中貝市長が参加して、



意見を交わすパネリストの皆さん

熱心な討論が展開されました。中貝市長は「羽田空港の小型機枠の確保は、豊岡のためだけでなく、日本全体にとって必要な政策判断である」と述べたのに対し、篠原課長は「小型機の羽田空港への乗り入れは、技術的な問題もあるが、せっかくの拡張の機会なので、その可能性について真剣に検討していきたい」と話されました。

Q. 羽田空港の再拡張って何ですか？

A. 首都圏の将来の航空需要の増大に対応するため、平成22年の併用開始を目指し、現在4本目の滑走路の整備が進んでいます。完成すると発着容量が現在の1.4倍になると言われています。

Q. 小型機枠の確保とは何ですか？

A. 現在の羽田空港へは、原則的に小型機の乗り入れが許可されていません。このため、豊岡市などでは国に対し、羽田空港の再拡張時には、小型機の乗り入れを認めるよう要望しています。

Q. 東京直行便実現のためには、どうしたら良いですか？

A. 仮に小型機枠が認められても、コウノトリ但馬空港 - 羽田便を就航してくれる航空会社を探す必要があります。そのためには現在の路線の搭乗者数を増加させ、但馬 - 羽田便が採算の取れる路線であると示す必要があります。市民の皆さんも、ぜひ、コウノトリ但馬空港を利用ください。



目指せ！
東京直行便！

コウノトリ但馬空港を
利用ください！！

